

# 平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

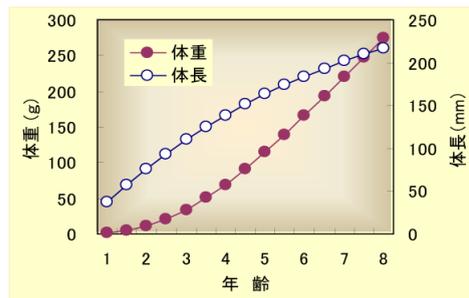
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 20歳程度  
成熟開始年齢: 雄3歳、雌5歳  
産卵期・産卵場: 1~4月  
索餌期・索餌場: 周年、水深350~1,300mの深海域  
食性: エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類  
捕食者: マダラ、アブラガレイ

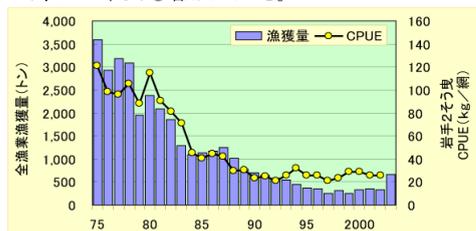


## 漁業の特徴

太平洋北部では、キチジは主に沖合底びき網漁業(沖底)で漁獲されるほか、小型底びき網漁業、底延縄、底刺網で漁獲される。近年、沖底船は9~12月にスルメイカを狙って操業することが多く、スルメイカより深場に生息するキチジに対する漁獲圧は以前より弱くなっている。しかし、今後の資源量の増加によりキチジ狙いの操業が増える可能性があり、動向を注視する必要がある。

## 漁獲の動向

全漁業種類による漁獲量は1975~1985年にかけて急激に減少し、1997年まで減少の一途をたどった。沖底の漁獲量も同様で、1970年代には2,000トン前後の高い漁獲量を維持していたが、その後、減少傾向を示し、1997年には過去最低の229トンとなった。しかし、2003年の漁獲量(暫定値)は、全漁業種合計で673トン、沖底で561トンとなっており、1997年よりも増加している。

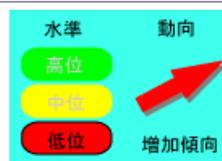


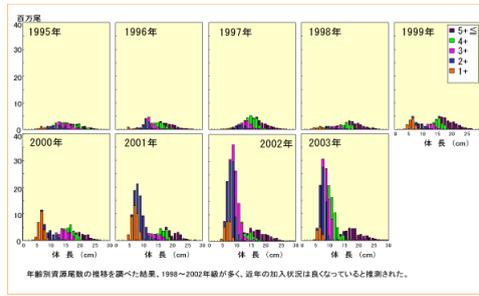
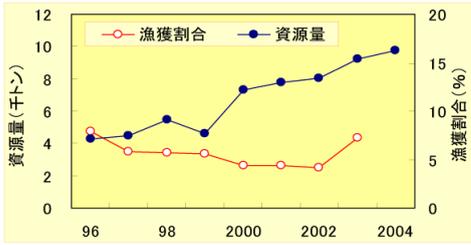
## 資源評価法

秋季にトロール網による底魚類資源量調査を実施し(水深150~900m、計100地点)、面積一密度法により資源量を推定した。調査海域は青森~茨城県沖で、太平洋北部のキチジの分布範囲をカバーしている。曳航式深海ビデオカメラとトロール曳網調査により、本調査で用いたトロール網の身網による採集効率(網の前にいた魚が網に入る比率を示す係数)は0.3と推定されているため、この値を用いて資源量の計算を行った。

## 資源状態

2004年1月時点の資源量は9,800トンと2003年より増加し、資源量は5年連続して増加した。資源全体の年齢別体長組成の変化によれば、1995~1998年に観察されなかった体長5~7cm程度の1歳魚が1999~2003年まで連続して出現していた。これらの年級は1998~2002年級であり、近年の加入状況は良くなっていると推測され、2003年には体長15cm以下に1~4歳魚の大きなモードがみられた。また、漁獲量およびCPUEの長期的な推移から、資源水準が現在も低位にあることは明らかであり、資源の動向は増加傾向と考えられる。





キチジの資源は低水準にあり、資源量を増加させることが必要である。近年の資源量は増加傾向にあり、現状程度の漁獲圧であれば徐々に増加する可能性がある。そのため、漁獲を抑えることにより資源量の増加を阻害させず、資源回復を確かなものにするを資源管理目標とし、現状の漁獲係数Fを8割に削減した時の漁獲量をABCとして算出した。

#### 管理方策

|           | 2005年漁獲量 | 管理基準            | F値    | 漁獲割合 |
|-----------|----------|-----------------|-------|------|
| ABClimit  | 720トン    | 0.8Fcurrent     | 0.077 | 6.9% |
| ABCtarget | 580トン    | 0.8・0.8Fcurrent | 0.061 | 5.6% |

F値は各年齢の単純平均  
 漁獲割合=ABC/資源重量  
 ABCは10トン未満を四捨五入した値

#### 資源評価のまとめ

- キチジ資源は低水準に留まっているが、増加傾向が認められる
- 近年の加入状況が改善し、今後、漁獲対象資源が増加すると推測される

#### 管理方策のまとめ

- 資源量の増加を阻害させず、資源回復を確かなものにするため、漁獲係数の引き下げが必要
- 急激に漁獲圧を高めないこと、若齢魚を保護していくことが重要

資源評価は毎年更新されます。